日経新聞 2021 年 10 月 30 日の「地ビール」の記事、全国版のほか、
14 ある地方版の全ての関連記事で、きた産業のデータが引用されました。

©日本経済新聞社 2021　（日刊）

日本経済新聞

土曜版

NIKKEI

2021年（令和3年）10月30日 土

きた産業

データで読む 地域再生

地ビール 流行から産業に

醸造500カ所、10年で2.5倍

2021年9月時点で528カ所。直近の底だった11、12年比で300カ所以上増えた。消費者の好みの多様化や低価格の設備が増えたことが背景にある。

都道府県別では東京都が73カ所で首位。2位は36カ所の神奈川県で、クラフトビールを扱う飲食店が多い都市部が強みを発揮した。3位以下は北海道、静岡県、長野県の順。国税庁の調査によると、02年度は販売形態別でレストラン併設の醸造所が64%と最多だったが、09年度に飲食店や卸売業者への販売が逆転した。地方で上位の自治体には地域に根ざしつつ、積極的に販路を広げた醸造所が目立つ。

北海道では法改正後、オホーツクビール（北見市）が全国で初めて製造免許を取得した。醸造所の数は14年までトップで、その後も3位以上を維持する。

網走ビール（網走市）は06年に民事再生法の適用を申請、市内の別の会社が立て直した。流氷を仕込み水に使い、08年に発売した「流氷ドラフト」などがヒット。21年8月期の出荷本数は過去最高の157万本となった。百貨店の物産展などで知名度を高める一方、加えて賞味期限を延ばし、道外での消費を増やそうと、製造業者など6社は6月、協同組合を設立した。原材料の共同購入などの仲間の設立。原材料の共同購入などの仲間の設立。

静岡県は21カ所の醸造所のうち15カ所が東部に集中するが、てファンを増やす。11月には各社の製品が最短でも10日は自宅にシンガポールのような厳しい検疫待機で出社できないとなると、仕事に支障が出る。

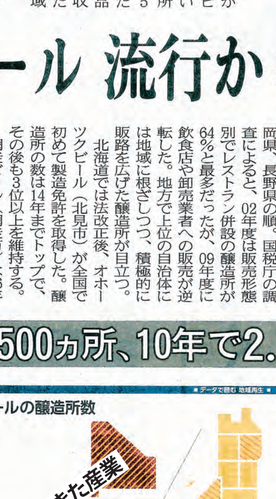
企業にとっても、海外から戻ってきた社員が最短でも10日は自宅に待機で出社できないとなると、仕事に支障が出る。

日本松立大学連盟によると、留学生の入国後の隔離を除する体制に移行した。

少量生産で個性的な味わいが特徴の「クラフトビール（地ビール）」が再び注目を集めている。民間集計では全国の醸造所は500カ所超と10年で2・5倍になった。規制緩和を受けた1990年代後半のブームは品質が不安定な業者も目立ち、収束したが、地道に技術を磨いた作り手が復活の礎を築き、地域振興の「芽」へと成長した。

（関連記事を地域経済面に）

94年の酒税法改正で、ビール年間最低製造量は従来の3%に引き下げられ、大手4社の寡占に穴があいた。酒類容器製造、きた産業（大阪市）によると、クラフトビールの醸造所は

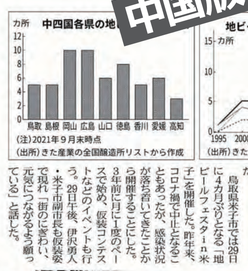


（注）きた産業（大阪市）の「全国醸造所リスト」を基に作成。発泡酒及びビール大手4社の醸造所を含む

静岡、組合作りファン開拓

静岡県内の醸造所が連携し、地域経済の活性化につなげている。もともと地ビールは個性が売り物。果物など中四国ならではの原料で当地ビールを提供し、街づくり団体や地域おこしの核になる動きも目立つ。一方で際立った個性の追求が難しくなっているとの指摘もある。

中四国地方でも地ビール醸造所が多く増加し、地域経済の活性化につながっている。もともと地ビールは個性が売り物。果物など中四国ならではの原料で当地ビールを提供し、街づくり団体や地域おこしの核になる動きも目立つ。一方で際立った個性の追求が難しくなっているとの指摘もある。



ヤッホーブルーイングはエールビールに特化した醸造所だ

沼津ビールは新潟県の食材を使ったクラフトビールを製造する

尾道の醸造所支援施設で生まれた「あっぱビール」

広島・尾道 雇用の場も創出

元気のない商店街に足を運ぶ人を増やそうと、尾道市の醸造所3社が連携し、「大口ビール」など自慢の地ビールを販売する組合を設立。観光シーズンの10月から、市内の醸造所3カ所を巡るスタンプラリーを始めた。

醸造所は、尾道駅から徒歩圏内にあり、観光の合間に立ち寄りやすい。「尾道ビール」を醸造する「ビアマニア尾道醸造所」（尾道市）は、2015年に開業。再び増加傾向にある9、10年度は50カ所（21年9月末）。10年度と比べて9割増となった。コロナ後を見据えスタンバイを始めた。

鳥取県米子市では20日、4カ月ぶりとなる「地ビールフェスタｉｎ米子」が開催された。昨年、来子に参加できなかった人や、感染状況が落ち着いてきたことから参加を決めた人など、約1時間に限定の入れ替え制で、伝統コンテストなどが行われた。

「来年は自由に飲んで楽しめるといいな」と話す。

静岡県内では21カ所の醸造所が稼働。東部に集中し、伊豆地域は「地ビールフェスタ」を開催するなど、地域経済の活性化にも貢献している